

5. 鳥取県における低出生体重児の 追跡調査－9施設入院児の追跡

高 嶋 幸 男（鳥取大学脳研神経小児科）

重 松 秀 夫，大 谷 恭 一（鳥取県立中央病院小児科）

1. 目 的

昨年度、昭和52年に出生し、3歳児健診を受診した児の状況を調査し、低出生体重児は3歳児健診受診率が低いこと、身体的に小柄であることが多く、発達アンケートでは運動発達の遅れが多く、SFDでは言語発達の遅れが多いことを報告した。

今回、3歳児健診受診児のみならず、未受診児の状況を知ることが必要と考え、昭和52、53年度に鳥取県内の9施設の未熟児センターへ入院した低出生体重児について3歳時点での状況を追跡調査した。

2. 調査方法

昭和52、53年に9施設へ入院した低出生体重児317名の周産期の臨床事項を入院カルテからチェックした。生存例を3歳児健診受診児と未受診児に分け、受診児については3歳児健診カードから身体計測による身体的発育、発達アンケートによる運動、社会的および言語の発達について調査し、2500g以上の成熟児と比較検討した。さらに、要注意児と異常児について検討した。

未受診児については昭和52年出生児には保健婦による追跡調査を行い、昭和53年出生児にはアンケートによる調査を行った。

3. 調査結果

1) 低出生体重児の9施設への入院状況

鳥取県において昭和52、53年に出生した2500g未満の低出生体重児は822名であり、そのうち

317名が9施設へ入院していた。1500g未満の例は86%と入院率が高く、2000g以上の例では入院率は低かった（表1）。

2) 入院した低出生体重児の3歳児健診受診状況
入院した低出生体重児317名のうち、新生死亡例を除く169名（64%）が3歳児健診を受診していた。1000g以上の低出生体重児では出生体重によって受診率に差はなかったが、1000g未満の例は全く受診していなかった。1000g未満の13例中9例は死亡し、生存した4例中2例は転居し、2例は未熟児網膜症の例であった（表2）。

9施設入院317名のうち、新生児・乳児期に60名が死亡し、3歳時点の生存257名中、169名（65.8%）が3歳児健診を受診し、88名（34.2%）が未受診であった（表3）。

3) 3歳児健診受診児の検討

9施設入院児の3歳児健診における状況について、2500g以上の成熟児と比較検討した。表5のように、発達アンケートでは成熟児に比して通過がわるいものが多く、医師の診察でも行動に問題があるものと知能・言語に問題があるものが多かった。また、身体的発育でも小柄なものが多かった（表4）。

発達アンケートにおいて、ハイと答えたものを+1、イイエと答えたものを-1、わからないと答えたものを0とし、発達アンケートの結果を点数化し、合計点数が4以下のものを要注意者とした。この要注意者は3歳児健診受診児169名中19

名（11.2％）にみられた。また、明らかな異常児は5名（3.0％）であった。この異常児は結節性硬化症1名、先天性心疾患1名、小頭症1名、精神薄弱2名であり、1500g以上の例にみられた。

（表5）

4) 3歳児健診未受診児の追跡調査

3歳児健診未受診児88名の保健婦およびアンケート調査では74名が追跡可能であり、9名（12.2％）に異常児が認められた。9名の内訳は未熟児網膜症2名、横顔面裂1名、合指症1名、先天性心疾患1名、脊髄髄膜瘤1名、ロイシン過敏性低血糖症1名、偽性副甲状腺機能低下症1名であり、1000g未満で出生した未熟児網膜症2例以外は先天異常であった。これらの例はすべて大学および総合病院へ通院していた。

4 まとめ

1) 鳥取県にて出生した822名の低出生体重児のうち、317名が県内未熟児センター9施設へ入院した。

2) 9施設で生存退院した257名中169名（65.8％）が3歳児健診を受診し、88名（34.2％）が未受診であった。

3) 3歳児健診受診児169名中19名（11.2％）が要注意者であり、5名（3.0％）が異常児であった。

4) 3歳児健診の未受診88名中74名が追跡調査でき、9名（12.2％）が異常児であった。未熟児網膜症2名以外は先天異常であり、総合病院へ通院していた。

5) 3歳児健診における要注意者はさらに追跡予定であるが、未受診者では要注意者を把握することができなかった。

表1. 鳥取県における低出生体重児（昭和52，53年）

出生時体重(g)	-999	1000 -1499	1500 -1799	1800 -1999	2000 -2299	2300 -2499	<2500
出生数	15	43	60	76	219	409	822
県内未熟児センター入院数	13	37	40	44	86	97	317
入院率(%)	86.7	86.0	66.7	57.9	37.2	23.7	38.6

表2. 未熟児センター入院児の3歳児健診受診状況

出生時体重(g)	-999	1000 -1499	1500 -1799	1800 -1999	2000 -2299	2300 -2499	<2500
県内未熟児センター入院数	13	37	40	44	86	97	317
3歳児健診受診数	0	13	20	22	56	58	169
受診率(死亡を除く)新生児	0	61.9	62.5	57.9	69.1	65.9	64.0

表3. 未熟児センター入院児の3歳時での状況

	S. 52	S. 53	計
県内未熟児センター入院数	157	160	317
死亡(新生児・乳児)	24	36	60
生存	133	124	257
3歳児健診受診(%)	95 (71.4)	74 (59.7)	169 (65.8)
3歳児健診未受診	38 (28.6)	50 (40.3)	88 (34.2)

表 4. 未熟児センター入院低出生体重児の 3 歳児健康診査における状況

対照：出生時体重 ≥ 2500 g

(男 7305 女 7094)

χ^2 検定

低出生体重児に多かった項目		男 n = 72	女 n = 95	計 n = 167
発達 12 ア ン ケ ッ ト	通 過 6 項 目 以 下	11.1% N.S.	7.4% ***	9.0% **
	未 通 過 4 項 目 以 上	16.6 ***	5.3 *	10.2 ***
医 師 診 察	行 動 問 題 あ り	6.9 N.S.	7.4 ***	7.2 ***
	知 能 ・ 言 語 問 題 あ り	8.3 *	8.4 ***	8.4 ***
身 体 計 測	体 重 < 12.3 kg	20.8 ***	30.5 ***	26.3 ***
	身 長 < 90.1 cm	18.1 ***	27.4 ***	23.4 ***

*** $P < 0.001$

** $P < 0.01$

* $P < 0.05$

N.S. : not significant

表 5. 未熟児センター入院児の 3 歳児健診受診児の状況

	S. 52	S. 53	計
3 歳 児 健 診 受 診 児	95	74	169
要 注 意 児	9 (9.5)	10 (13.5)	19 (11.2)
異 常 児	4 (4.2)	1 (1.4)	5 (3.0)

表 6. 未熟児センター入院児の 3 歳児健診未受診児の追跡調査

	S. 52	S. 53	計
3 歳 児 健 診 未 受 診 児	38	50	88
追 跡 可 能	32	42	74
異 常 児	6 (18.8)	3 (7.4)	9 (12.2)
追 跡 不 可 能			
県 外	4	4	8
不 明	2	4	6

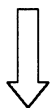
保健婦調査

アンケート調査



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



4.まとめ

1)鳥取県にて出生した,822名の低出生体重児のうち,317名が県内未熟児センター9施設へ入院した。

2)9施設で生存退院した257名中169名(65.8%)が3歳児健診を受診し,88名(34.2%)が未受診であった。

3)3歳児健診受診児169名中19名(11.2%)が要注意者であり,5名(3.0%)が異常児であった。

4)3歳児健診の未受診88名中74名が追跡調査でき,9名(12.2%)が異常児であった。未熟児網膜症2名以外は先天異常であり,総合病院へ通院していた。

5)3歳児健診における要注意者はさらに追跡予定であるが,未受診者では要注意者を把握することができなかった。